

## 6 アフガニスタン

AMD Aアフガニスタン支部長

モハマド・ナイム・ラヒミ 医師(48)



「ドローン」と大きな爆発音が響き、黒煙が立ち込めました。アフガニスタンの首都カブールで5月31日に起きた大規模爆弾テロです。

死者は1500人を超え、負傷者も300人以上にのぼりました。

国内では2014年末に国際治安支援部隊（ISAF）が任務を終えた後、反政府勢力や過激派組織らによるとみられる自爆テロや誘拐が頻発し、多くの命が失われています。それでも首都中心部でこのほど被害は初めてでした。

情勢不安は1978年に始まった内紛にさかのぼります。翌79年には旧ソ連が軍事介入しました。東西冷戦の真ただ中でもあり、共産圏の勢力拡大を警戒したアメリカが、旧ソ連と対立するグループに武器援助するなど紛争は泥沼化し、難民は延べ約500万人にのぼったとされています。

# 頻発するテロ、自然災害 質の高い治療継続

日本とアフガニスタンは89年に国交を閉ざし、日本人の現地入りは困難となり

ました。AMD Aの緊急医療チームは隣国のパキスタンに逃れてきた難民などの支援に当たりました。

99年、菅波茂代表は難局の打開に乗り出しました。当時はイスラム原理主義のタリバンが政権を握り、前政権の北部同盟と敵対していましたが、豊富な人脈を生かし、紛争当事者に停戦を呼び掛けたのです。

AMD Aは、双方の幹部を別々に岡山に招待。アフガニスタンにまん延する子どものポリオ予防のため、ワクチン接種の期間は停戦とすることなどで、それぞれと合意したのです。

このことは日本のマスコミでも大きく報じられましたが、紛争は収まらず、幻の医療和平”となりました。

国際社会の支援を受けてアフガニスタンでは子どもの就学人数が増えるなど、各分野で復興が進んでいます。難民の

流出も続いています。

社会の豊かさや進歩の度合いを示す国連開発計画（UNDP）の2012年の人間開発指数は、187カ国の中で175位とアフガニスタンは最貧国に位置します。こうした劣悪な経済環境が国外脱出やテロの背景の一つとみられています。

さらに追い打ちをかけているのが、地震や洪水、干ばつなどの自然災害です。国際赤十字によると、16年度に世界で起きた自然災害670件のうち約15%の100件がアフガニスタンに集中しています。

AMD Aアフガニスタン支部は11年、AMD A本部（岡山市北区伊福町）の支援を受け、カブールに日本アフガニスタン友好病院を開設しました。これまでの度重なる爆撃などで医療インフラも大きな打撃を受けています。今後もこの病院を通し、住民により質の高い治療を提供したいと願っています。



菅波代表（前列右）の呼び掛けでワクチン接種期間の停戦の合意書にサインするタリバン政権の保健相（1999年1月）



アフガニスタン アジア大陸の中南部に位置し、険しい岩山と砂漠、起伏に富んだ草原地帯で構成される。面積は65万2000平方キロで日本の1.7倍。人口は2860万人で全体の10%は遊牧民。宗教はイスラム教。「民族のモザイク」とも言われ、多くの民族が混在する。天然資源に恵まれ、エメラルドなど貴重な鉱石が採取される。AMD Aアフガニスタン支部は2008年、カブールに開設。スタッフは7人。